

### 3 「主体的に学習に取り組む態度」はこれを見る

#### ☆他の観点との関係は？

本文下線部にもあるように、他の観点との関連性が強い内容です。したがって、例えばノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではありません。

よって、単元末や学年末に他の2観点と極端なばらつきが出た場合においては、評価方法や授業内容を一度見直すなどの指導改善を図る必要があります。

#### ☆いつ評価する？

「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有することから、単元（題材）の最後に振り返りを持つだけでは不十分です。

右ページの事例にあるように、学習者である自分の学習状況を見つめ直す振り返りができるよう、単元（題材）計画や教科の特性、学習スタイルにあわせて授業者が丁寧に振り返りの活動を設定しましょう。

#### 何を評価する？

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、**自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという、意思的な側面**を評価することが重要です。

#### 「自らの学習を調整する」とは

「自らの学習を調整する」とは、生徒が自らの学習状況を見直し、目標を達成するために今後何をすべきか考えたり、諦めずに粘り強く取り組んだりする状況のことです。生徒の、そのような外からは見えにくい側面を見取るためには、単元の学習の中で、その姿が表出するような場面を設定することが求められます。単元のはじめに目標を共有したり、他者との意見交換の機会を設けたり、単元の終わりに目標の達成状況を確認させたり、過去の自分と比較してどのような変化があったかを見つめさせたりして、生徒が自らの学習をより良いものにするためには何をすべきか、考えさせる機会をもつと良いでしょう。

#### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法例

具体的な評価方法としては、振り返りシートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察を、材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、生徒の発達の段階や一人ひとりの個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

#### 個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

##### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

「主体的に学習に取り組む態度」の記述による評価を例示しましたが、考えをノート等に記述することが困難であるなど、配慮が必要な生徒がいる場合には、記述による評価を口頭による評価で代替することも考えられます。生徒の実態等に応じて適切な評価方法を選択することが考えられます。

##### 時間の確保が大切

振り返りシートの記入時間は授業内に確保しましょう。後で提出させると、内容を忘れてしまったり、提出を忘れてしまったり、用紙を紛失したりするなど提出しにくくなります。

